

高退協ニュース

高知高退協
事務局
1996-12-24
No.84

高知県高等学校退職教職員協議会
高知市丸の内二丁目一〇番
TEL 088-811-6823
FAX 088-811-6823
振替口座 徳島 51-116893



島双礼久



新年を迎えて

坪井 幹之

明けましておめでとうございます。
昨年は「無為に過ごすこの1年」と私事を含め、四つの目標を掲げました。高退協二〇周年記念のとりくみ、「山の会」のカナダツアー、山原さんの一〇選、やきもの作りでした。振り返れば、最後の陶業を除いてすべて上々の結果、満足すべき1年でした。これもひとえに、一緒に活動して頂いた仲間みなさんのお陰と、心から感謝しています。今年も、ネパールヒマラヤのトレッキングなど充実した1年を送りたいと思っています。さて、高退協ですが、今年も会員みなさんの親睦と交流を中心に、一歩でも二歩でも社会進歩に寄与できるよう運動を進めたいと思います。消費税増税、老人医療費の値上げ等、私たちを取り巻く情勢はたいへん厳しく、高齢者の連帯がますます大切になってきています。今年も手を携えて頑張りますよ。
最後に会員みなさんのご多幸をお祈りして、新年のご挨拶とします。(一九九七・一・一)

老声草

教科書訴訟は三十二年目であるが、いよいよ最終ラウンドを迎えた。一九六五年六月、高校「日本史」教科書の執筆者であった家永三郎さんは、「戦争を暗く書くな、戦争に協力した国民の明るい姿を書け」などと強要され、裁判史上前例のない教科書検定及びその制度が、憲法が保障する言論・出版・表現・教育・学問の自由に違反すると訴えた。
家永さんは法廷証言で、「戦争に抵抗できなかった罪の万分の一でも償いたいという心情から、あえてことうした訴訟に踏切った」という。
一九九三年、最高裁第三小法廷は、大法廷に審理の場を移すこともなく、口頭弁論も開かず、教科書検定について制度も家永教科書への処分も合憲、合法という判決を、抜き打ち的に言い渡した。(第一次教科書訴訟)
家永さんは、「裁判での勝ち負けではなく、多くの人々に、教科書検定は制度

上も運用上も、憲法・教育基本法に違反すると疑問視してほしい」という。それに応じて全国三万人近い人々が、教科書検定訴訟を支援する運動を続けながら学習してきた。
第三次訴訟では、大法廷に回付させ口頭弁論が開かれることを要求していかなければならない。三十二年にわたって国民の中で大きな論議を呼んできた教科書検定については、最高裁自らが積極的に大法廷で憲法判断を示さなければならぬ。そのことが、真に司法の独立の証である。
日本のように詳細に規制する教科書検定は、先進諸国には例がなく、国際的にも批判され、この訴訟のゆくえは世界の注目を集めるだろう。
実に長期の裁判である。家永さんの不屈の戦いは、われわれをも元気づけてくれる。そして強い味方は、一九七〇年の杉本判决である。
横浜訴訟へと続くが、日本の裁判史上、よき先例として歴史的評価に値する確固たる判決を望む。(和田)

高退協のみなさん
よい新春をお迎えのことと存じます。昨年はほんとにお世話になりました。私の出身団体として全教局をリードしてくださったみなさんへ心からお礼を申し上げます。
訪ねてきた友のことは、よかつたのお涙さしぐみしばし止まざり
また決まらぬ心あふれたいと祈ります。
あいらしき山嶺に向かい
暮暮の春はよ休を大切に
一九七〇年元旦 山原三郎
赤松院 謹言



「秦泉寺日記」抄 坪井 幹之

十一月

「一日」「老泳会」に参加。
「光陰矢の如し」、今年も残すところあと二カ月。夜は、「高知法律事務所創立三〇周年記念レセプション」に高退協を代表して出席。山原さんの心憎溢れる挨拶が始まって、土田弁護士お得意の熱唱「バナナボート」でお開き。
「十五日」「老泳会」の日。プールでは老若男女黙々と泳ぐ。秋深しの感。
「十七日」「山の会」例会。阿波矢筈山を計画のところ、悪天候のため急遽、土佐町の笹ヶ峰に変更、十七名で登る。展望はそこそこだが、芸がない山。早々に退散。雨には遭わず、昼前に下山。



『老・眼・鏡』

加藤周一 「日本人とは何か」 (講談社学術文庫)
老眼鏡にはいささか堅すぎることを承知で推薦する。一九五七〜一九六四間に発表されたエッセー八編を収めている。著者は英米仏などにかんがりの期間住んだことがあって、日本人の長所

も短所もよく見えているという気がした。三十年以上前に書かれたものだが、今読んでも色褪せていないのはさすがだ。いずれも日本及び日本人に対する鋭い洞察を含んでいるが、「近代日本の文明的的位置」の論旨を要約すると次のようになる。
現代の日本が高度の文明国であるというところは「生活程度」を中心として考えられるかぎり否定できない。しかしその近代化は上から行なわれ、西洋植民帝国を手本として日本に固有の独特の形が生れた。都会の知識階級が巧妙に編成され、有効な道具として天皇制支配

「十九日」一時よりニュース發送事務。終了後、事務局会議。研修旅行など八項目の報告に続いて、消費税増税反対、望年会、新年の集い等当面する課題について協議。やっと大相撲に間にあう。土佐ノ海魁皇を倒す。
「二十二日」「老泳会」の日。メンバーの上田栄蔵さん、釣で肋骨を骨折、お休み。節氣は「小雪」、銀杏の街路樹見事に黄葉。
「三十日」読書会、9名の参加。松本清張の「日本史発掘」がテキスト。話の焦点は2・26事件が侵略戦争拡大のために仕組まれた「謀略」であったかどうかという点。終了後、家庭の「反乱」を心配しながら、4名で私的な忘年会。次回は1月、続いて同書の前半を取り上げる予定。
十一月
「六日」二時より高退協事務局会議。議題は高教組からの



要請など数件。四時半より高退協望年会。参加者は山原さんをはじめ四十数名で盛会、手品、浪曲の余興など、歓を尽くす。
「八日」「山の会」十二月例会。「大雪」寒波による積雪のため行き先を中津明神より黒森山に変更。参加するもの十一名の精鋭?。吾川村峰岩戸に駐車。二時間足らずで登頂。頂上付近は雪の原。白銀の石鏡を見る。日だまりに散らばって昼食、下山にかかる。日陰は凍結で滑る、慎重に下る。帰途、加茂温泉に立ち寄るが、なんと定休日。しかたなく解散。かくして今年も無事故で十二回の山行を完了。来年の初会は一月五日のハイキング。

定年退職になる前の二校は、須崎高定時制と次が佐川高のやはり定時制だった。両方とも私は汽車の通勤であつたが、須崎も佐川も家に帰り着くのは、ほとんど真夜中だった。幸い二校とも車で通勤の同僚がいて、それに便乗させていた。旭駅前まで来てもらって、それから私はそこに置いていた自転車帰宅するのだが、それでも早くして十一時ごろ中万々の自宅に辿り着いた。
家に帰っても、何かしら心の緊張が残っているものだから、それをほぐすのにどうしてもアルコール依存症になつてしまふ。すっかり意識を失うまで飲んで、前後不覚の状態に就く日が続いた。
でも、不思議なことに退職した途端、アルコールの力を借りなくても、いくらかでも眠られるのだ。ナイト・キャップ(寝酒)などしたこともないどころか、飲むとこたえて睡眠が困難になるのである。
いまは、その代り食前酒としてビールの小ビン一本を飲みきれないほどの量でたぐさんだし、それ以上の分量はもう全然、体が受けつけない。
ところで、ある人が音楽会で居眠りをする話を書いていたが、たしかに弦楽四重奏のシューベルトやブラームス、ヤナーチクあたりの、睡眠者の比率は高いのだが、大音響も出てくるブルックナーのシンフォニーや、相当うるさいシヨスタコヴィチのシンフォニーだつてけっこう眠っている人はいる、と。

木村 信夫

研修旅行の

先号ニュース(N083)で報告したように内子・砥部・久万方面の旅は研修の名にふさわしい内容の濃いものでした。
総収入はカンパを含め74,800円、支出は73,664.5円(写真1,800円、切手1,200円を含む)でした。
残金11,355円は一般会計に繰り入れさせていただきます。



「霜月句会」
楓といふやさしき黄葉明らかな 伸 秋
紅葉山越せば古里平家村 青 幹
源流の水いよよ澄み空も澄み 青 幹
高きより折々落葉翻る 青 幹
近秋や末裔多き平家村 青 幹
歩くこと止めて俄に紅葉冷 青 幹
矢の如くためらふ如く散る紅葉 さちを
一の谷二の谷かけて紅葉狩 さちを
秋晴るるあの山の名はこの山は みち代

勤評裁判の勝利

島内 一夫

こんどの勤評裁判は、元教育長・前知事の中内力氏が、「原告らに対し遺憾の意を表明する」(和解文書より)ということで、四年ぶりに終わりました。

この決着は、当日にされた県教組の声明にも言われているように、「勝利的和解」です。なお声明は、「この勝利の意義を広めながら、高知県の教育と教職員組合運動のいつその民主的発展のために、力をつくす」と結ばれています。

この裁判には、県内外からご支援をたまわりましたが、なかでも高退協の皆さんの厚いご援助をいただきました。ふり返ると、前の刑事と今度の民事を合わせ、十五年の長期にわたる裁判をたまたたけです。それを通して余すところなく明らかにされたのは、権力による弾圧とその手口でした。

新聞に載せた中内氏の問題の回想記の部分は、勤評闘争

五月の旅

(包国先生に)

お会いしてきました)

田所 潤子

深緑の五月下旬、花の季節は過ぎていたがJRフルムーン切符を利用して、鎌倉、軽井沢、信州上田の旅に出た。

鎌倉には包国先生がいらつしやる。生来の筆無精の私は、御無沙汰ばかりで年賀状しか出していなかつたが、何の連絡もなしに北鎌倉駅に降り電話した。お元気かしら？入院中では？、こんな心配をしてきたが、電話のむこうから、高知を離れられた時と変わりの言葉で喜んで下さる声がきこえてきた。大船駅の近くだと言われる。御住所から見当をつけてきたのだが、おりる駅を間違つて乗り過ぎてしまったらしい。やつとタクシーを拾い教えられたとおりに行くと、先生が杖をついて道へ出て待っていてくださった。

高知を出られる時、既に血管障害の後遺症で少しご不自由であったが、お変わりのご様子はなく、奥様も同様に優雅で美しかった。

と県教組や関係者に対し、権力意識をまる出しにした悪意に充ちたものでした。そのうえ、彼は希代のデマゴグで、白を黒とする例証や感想を下品な文体で書き散らしてしました。したがって、身にふりかかる火の粉をふりはらうために、それを法廷に持ち込んだのは当たり前のことでした。中内氏が自身で、なぜ法廷に出て、所信を表明できなかったのか。病気を理由に一片の医師の診断書で逃げてばかりいる、かつての権力を引きずった醜い姿でした。

さて、自分の行為が、県教組やその関係者に迷惑をかけた、遺憾であったと法廷で認められた以上は、中内氏はどういう形で謝罪の意を表そうとするでしょうか。こちらの関係先と会つて頭を下げて廻るか、或いは書簡でもよからうと思われます。そうするのが社会の常識というものでしょう。

元知事でそれなりのメンツがあるとしたら代理人を立てるもよいでしょう。並みのことでは非を認めようとしませんが権力というものですから、あえてこのことを書き添えておきます。

お嬢様のお家のお近くで、大船撮影所もすぐ近くのように、静かな自然に囲まれた、先生にお似合いの場所だと思つた。

本箱に囲まれたお部屋で高知のかつての同僚、教え子たちのお話をした。みなさんのことよく御存知である。奥さま手作りの工夫された品のよい袖の作務衣がよくお似合ひである。私はかつての先生の素敵なチャップリンを思い出しながらなつかしく愉しく、二時間近くがまたたく間に過ぎて、先生と奥さま、私たちも加わつたりして写真を撮つてお別れした。皆様にお会いしたら元気ですからと伝えて下さいとのことであつた。

鎌倉のお寺や神社を巡り、偶然にも坂本弁護士一家のお墓に参拝、美しいお屋敷の鎌倉文学館でゆかりの多くの文士たちの行跡を見たり、お庭の満開のバラ園は予期せぬ見ものであつた。軽井沢では、落葉松林を歩き、植物園、高原文庫、絵本の森美術館を見て歩き、若い昔大好きだつた堀辰雄や野上弥生子、有島武郎の別荘をのぞいた。信州上田も歴史ゆかしい

お嬢様のお家のお近くで、大船撮影所もすぐ近くのように、静かな自然に囲まれた、先生にお似合いの場所だと思つた。

望年会

スクラム組んで

十二月八日(木)午後四時三十分から、高知城ホールで高退協の望年会を開きました。参加者四十名。お互いの再会をなつかしみ、よるこび合う風景があちこちにみられました。

会は、会長、山原先生の挨拶、ひきつづき池上壽雄先生への感謝状の授与(研修旅行、望年会など高退協の行事に積極的に参加、手品によつて会場の雰囲気をはりやかにしてくださつた功余興では福引き、池上先生の手品で目を見張り、川谷先生の米若調の浪曲、思いがけない人の歌に耳を傾けたことでした。又柳井先生のタクトで「あぢさい」の歌の大合唱、最後に、全員でスクラムを組んで「しあわせの歌」「団結がんばろう」を歌つて七時半に終わりました。

食べつぷり、飲みつぷり、歌唱力は昔と同じ。安心してました。旧知を温め合い、みんなの健康と来年の再会を祈つてのさわやかで、気持ちのよいふんいきのひととき。すてきな望年会でした。(加藤)

落ち着いた町並みであつたところどころ彫刻の像が立てられていた。上田城址、真田神社等を訪れ、北の鎌倉と言われる別所温泉の美しい寺々を巡る。信濃デッサン館で、若くして亡くなつた画家たちの力強い絵画を鑑賞し、宿舎の近くでは山本宣治、タカクラテルの相並ぶ記念碑にも出会うことができました。

お元氣な包国先生にお会い出来、どこへ行つてもさわやかな五月の花や、生気あふれる木々に出会い、鎌倉では鎌倉彫、軽井沢では美しい桜の花の軽井沢彫、信州上田では、山本鼎のはじめた農民美術といわれる木彫に出会い、木彫りを少しかじっている私には、嬉しい旅であつた。

(前号発表の予定でしたが、係の不手際で遅れ、大変ご迷惑をお掛けしました。時季を失いましたが、無理を云つて出して頂きました。)

一九九六年 高退協十六二ユース

- 一、高退協結成20周年、高教組結成50周年の祝賀行事を高教組と共催で開催(三月一〇日)
- 二、記念誌「それぞれに...この50年」を発売(二月下旬)
- 三、山原健二郎氏、小選挙区制を克服、十選を果たす
- 四、夏季学習講座、45名の参加で盛会
- ①「東西南北」合田正寛氏
- ②「知つて得する福祉の話」佐竹敏彦氏

- 五、四国の歴史と文化を訪ねて内子、久万を研修旅行
- 六、新たに学習会に取り組む(第一回高齢者問題、第二回教育の現状と展望)
- 七、「消費税増税反対」「行き届いた教育をすすめる請願」の運動をおこす
- 八、全退協全国交流集會に岡崎氏参加(草津で10月31日〜11月1日)
- 四プロ交流かい、高知で盛大に開催
- 九、山の会、カナディアンロッキーを行く
- 十、平和と民主主義、人権を守る行動
- 2・11建国記念の日」に反対する高知県民集會
- 3・1卒業式「君が代、日の丸」反対ピラ配布など

△会員の消息

- (川窪良夫さん)二月十三日倒れ現在は白菊園でリハビリ加療中
- (小笠原敦夫さん)七月中旬より日赤病院に入院、九月二十四日退院自宅にて療養中
- ◎◎
- 一日も早いご回復をお祈りします



◇ この高退協ニュースに会員の消息欄を設けています。病氣や転居・受賞・出版その他会員にお知らせしたらよい情報がありましたら事務局までご連絡ください。

紹介「メコン川を渡った高校生たち」

梅原 憲作

市商生徒会が、今年の第一一回竜馬賞を受賞した。九三年の幡多ゼミの受賞に引き続き快挙であり、現役の高校生としてはこれも二回目である。

また、県内で「賞」に値するだけでなく、教育の専門誌「教育」の最近号(12月号)の特集「高校教育における『総合』とは何か」で、直接指導してきた岡崎伸二氏「メコンを渡った高校生たち」の実践の論文と同校卒業生で東京の高校教師でありすぐれた実践・理論家として著名な吉田和子氏の「地域生活文化への参加とアジア市民形成の鼓動」により全国でのトップレベルの実践として評価され理論化されている。同生徒会の取り組みと意義をスケッチしてみよう。岡崎が生徒会担当になったのは八〇年代前半、幡多ゼミの誕生と同時代である。当時は全国にたりよつたり「お化け屋敷と金魚すくい」それに市商特有の「上下関係による力の支配」の文化祭だった。その後のとりくみは、テーマのある文化祭、教職員の参加、夢とデッサンカイトをやる文化祭にかえてきた過程である。

特に、九四年九月にNGO「高知ラオス会」が一、二万円でラオスに「学校一校贈る」呼びかけた記事を見た生徒会のメンバーは、早速その秋の文化祭に向け、ラオス学習、小学校建設の

必要性を全生徒に訴え、織田哲郎チャリティライブを功させ、七〇万円を「同会」に託してラオスに贈った。九五年には、県の国際協力事業としての「高知・ラオス友好の小学校ワークキャンプ」に参加し、自分たちで贈った学校を訪れ、「日本の学校はパンキー村の数倍すぐれているが、心は数十倍劣っている。ここに来て良かった。二学期から、人生観が変わった私が市商の教室にいる」と一生徒は語っている。秋の文化祭テーマは「アジアの風」。今年五月、株式会社「スインマーディ」(いらっしやいませ)を設立。一株三百円、教員、PTAの協力も得て、二五〇〇人の出資金で一四万円の資金でこの夏ラオス商品買い付けに飛んだ。商品購入と収益金を贈ることで二重の支援となる。九月にはプロの貿易商に交じって「こうち世界市96」に出店、十一月には文化祭で売り尽くした。

岡崎はこのとりくみを通じて、生徒は「自分が変わり、援助とは何が一番大切なのか」を理解し、自信を持ち、「学校」を「自分自身」の心に建てたのではと指摘し、吉田は、岡崎が総括の視点に憲法の「地方自治」を掲げることが高く評価し、この実践が「学校内外の学びや人間の関係が、学校と地域相互に還流しあう、…自分たちの新たな学校文化の創造」に期待をよせる。

「渡り川」の高校生たち

相撲三知識 十八

林 勤

親方金言集(3)

○はじめに
丁度一年前の高退協ニユースNo.78の親方金言集(2)の続きですが、論より証拠、相手をかまえて実演してください。よくわかっていただけると幸いです。

○小指を突いたら

一人前
押し相撲では廻し(まわし)は関係ないが、四つ相撲は廻しのどの部分をどう取るかというところで戦力に大きな違いができる。よい

を「竜馬を超える」現代の国際的竜馬」と賛辞を頂いた入交好保先生が生きておられたら、「日本で最初に株式会社を創設した竜馬」と較べてどう誉めて頂けたらどうか。そのことが心残りである。



健康手帳

太極拳と私

老いと向き合ったとき、私のように運動神経の鈍い者でも、退職後あれこれと健康体操を試みた。ヨ一ガ、ダンベル、三B体操、太極拳、それに名前を忘れたものも。その中で太極拳教室に通うことだけが続いている理由を考えてみた。

差し手を殺すという)こと、の二つが、実演をするときよくわかっていただけだと思つたり、前の方を③のように入るのが一番よい取り方です。

呼吸に合わせた、ゆつくりとした手足の運びと全身バランスを要求されることにより、いつのまにか足腰が鍛えられ、血液循環もよくなるような気がする。中国の人々の早朝太極拳風景はよく知られている通りだが、病院や療養所でも入りハビリとして必ずとり入れられていた。人民体育出版社の「太極拳運動」という本には「がん」に効能があると書かれていた。仲間とともに演ずる楽しさ。自分へたでも上手な人につられて次第に覚えてしまおう。先日の「高知国際交流フェア」では、中央公園のまん中で揃いの衣裳をつけ、気持ちのいい時間を過ごした。段級位認定というのもあるが、それにはあまりこだわらな



琴の若や水戸泉らは背が高い関係もあるが、廻しの後の方を驚掴みのように取ることが多い。貴乃花はほとんどどの場合、ふみ込んで前廻しを下から取るが、曙、武蔵丸、武双山らの突っ張る力士には特に素早くこの体制をつくる。

「新年の集い」ご案内

今春も恒例の高退協・山の会共催の「新年の集い」を下記の要領で開催しますので、ご家族を含めご参加下さるよう、ご案内申し上げます。

- 1. 日時 1月5日(日)午前9時集合
- 2. 場所 JR一宮駅
- 3. ハイキング 土佐神社-大坂峠-小倉山ハイキングコース-小蓮の古墳-長宗我部氏の墓所-岡豊山・県立歴史資料館(長寿手帳持参で入館無料)
- 4. 懇親会 午後4時から「サンピア高知」(県立美術館の北)にて、会費4千円(入浴希望の場合は、別途500円個人負担)
- 5. 参加申込み先 浜田昌俊(66-5907) 谷山紗栄(45-1770)